

埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作

第171号

令和3年1月

ソサエティ5.0を目指して

埼玉県退職校長会 副会長 小菅 勲



若者が近隣の町や都市に移住する傾向があり、かつて活気のある村々も少子高齢化の時代を迎えました。

人生百年時代を迎えはしましたがまた新しい課題も生まれて来ております。

政府は「第5期科学技術基本計画」を平成28年1月に策定し閣議決定しました。それによるとこれからの日本の国が目指すべき社会はソサエティ5.0(超スマート社会)であると言っております。

それはいつたのどのような社会なのか見てみましょう。人間の歴史を振り返ると狩猟社会(ソサエティ1.0)、農耕社会(ソサエティ2.0)、工業社会(ソサエティ3.0)と続き、

今は情報社会(ソサエティ4.0)です。その情報社会では通信技術の発達とデータ処理能力の向上によって社会に情報が増えています。

しかし、ビッグデータと呼ばれるそれらの情報は社会全体の叡智として共有されてはならず、人々が必要な情報を集めるのも一苦労となっております。

ところがソサエティ5.0では現実社会のありとあらゆる物がセンサーやチップによってインターネットに繋がります。その情報量は現在よりも飛躍的に増加し、人の能力ではまったく追いつかないものとなりつつあります。そして、それを的確に処理するため、人工知能(AI)の活用がさらに進んでいくことで、情報に人間が自ら集めて解釈するものから人間にとってより理解しやすい情報

1~2	巻頭言
3~6	支部別教育推進協議会
7	第1回理事会報告
8~13	一人一言
14	ゴルフ・囲碁大会
15	長寿会員への寿詞贈呈
16	文芸 編集後記

としてAIが解釈・加工して提供してくれるようになるでしょう。

そのようなして自動運転車やドローンが生まれ、社会の諸問題を解決する道が開けて行こうとしています。

浅間や赤城を仰ぎ見て



児玉支部長 高澤 利蔵

私が小学生の頃に、浅間山が大噴火した。一週間ほど、空が灰色だった。自宅の庭には、火山灰が積もっていた。同じころ、赤城山に登ったことがある。赤城は裾が長く、山が深かった。

私の卒業した中学や高校の校歌にも浅間山や赤城山が出てくる。中学では、「……たゆまぬ流れの大利根越えてそびゆる赤

城の空を翔けれ……」高校では、「連峰雲に輝くところ浅間は気高く赤城は深し……」浅間山は父親のようであり、赤城山は母親のようであった。

文部科学省が発表した「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策(最終まとめ)」では「もはや学校のICT(情報通信技術)環境はその導入が学習に効果があるかどうかを議論する段階ではなく、鉛筆やノートなどの文具と同様に教育現場において不可欠なものとなっている……」と

いつております。参考文献 「みんなの教育技術」(小学館 <https://kyoik-u.sho.jp/281861/>)

8か月間に及ぶ入院生活を余儀なく過ごしてしまった。入院中は、クリーンルームの為、面会は禁止されており、病室での孤独な毎日であった。

ベッドに横たわったまま数種類・数時間の点滴の毎日であり、昔のことを思い出しながら人生を振り返る日々であった。

「よし、元気になったら……健康を回復したら」悔いのない生涯を送ろうと決心した次第である。

健康は宝である。この度は多くの皆さんに心配とご迷惑をかけてしまった。

今後は、人一倍健康に留意し余生を充実したものにしたいと考えている。

晩秋の朝日に輝く冠雪の浅間山、そして、夕日に染まる赤城山を仰ぎ見ながら……